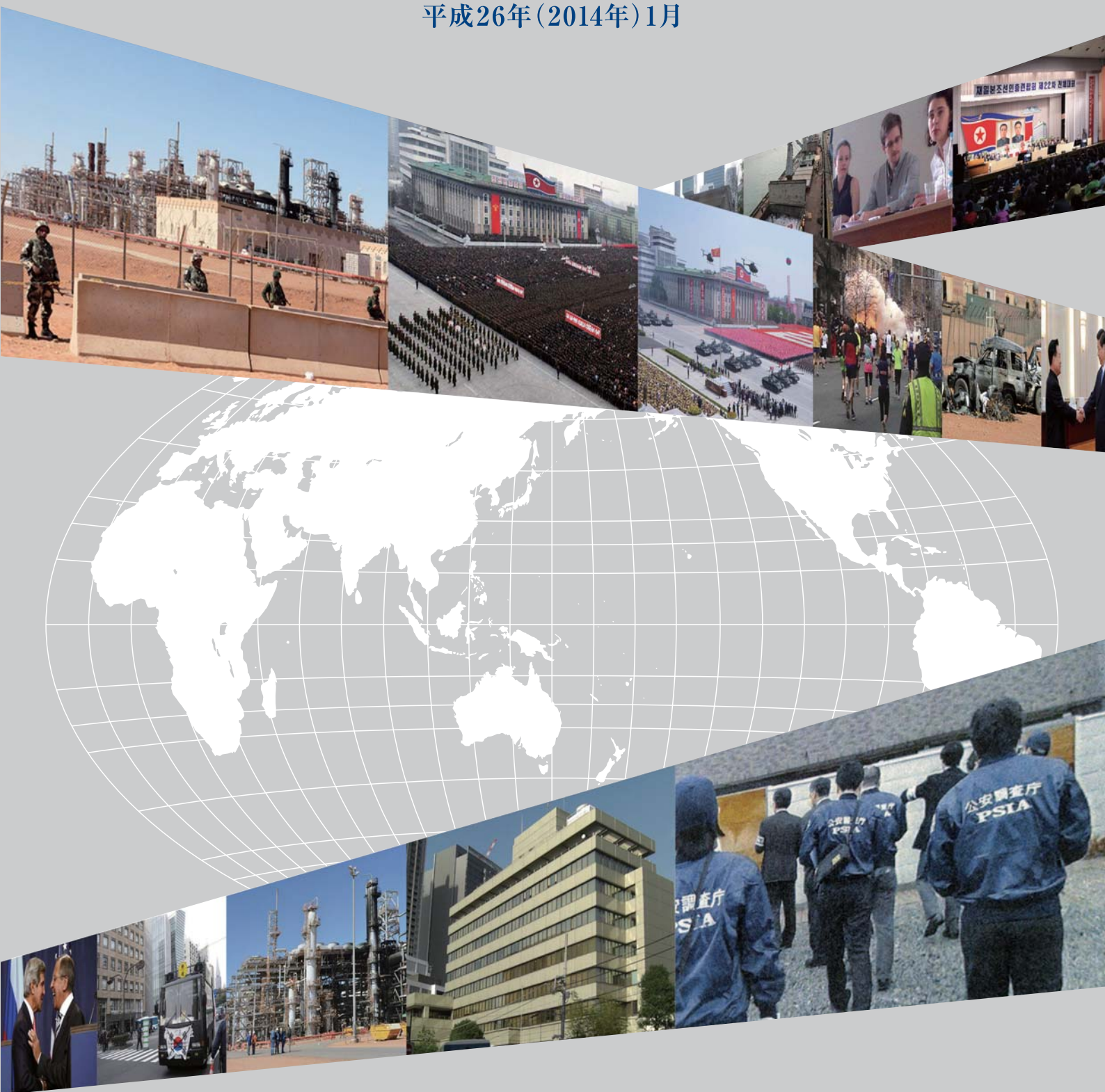


内外情勢の回顧と展望

平成26年(2014年)1月



公安調査庁

Public Security Intelligence Agency

【表紙で使用している写真について】

【上段】(左から)

- ・面会するスノーデン元米中央情報局職員 (AFP＝時事)
- ・開幕した朝鮮総聯全体大会 (時事)

【中段】(左から)

- ・イナメナスの天然ガス関連施設 (EPA＝時事)
- ・核実験を祝う平壤市軍民交歓大会 (朝鮮通信＝時事)
- ・北朝鮮・デモンストレーション飛行するヘリコプター (朝鮮通信＝時事)
- ・ボストン・マラソンのゴール付近で起きた爆発の瞬間 (ロイター＝共同)
- ・人質事件の現場となったガス田施設のプラント近くに残された、焼け焦げた車両 (共同)
- ・XI JINPING－DPRK－MEETING (Photoshot / 時事通信フォト)

【下段】(左から)

- ・ジュネーブでの記者会見で握手する米国のケリー国務長官 (左) とロシアのラブロフ外相 (ロイター＝共同)
- ・[竹島の日]における右翼団体の抗議活動
- ・人質事件の現場となったアルジェリア南東部イナメナスのガス田施設のプラント (共同)
- ・朝鮮中央会館
- ・立入検査

内外情勢の回顧と展望(平成26年版)の 発刊に当たって

公安調査庁長官 尾崎道明

公安調査庁は、毎年1月、その前年の、公共の安全に関わる我が国内外の諸情勢を「内外情勢の回顧と展望」に取りまとめて、発刊しております。ここにその平成26年版をお届けします。

当庁は、破壊活動防止法、無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律等に基づき、公共の安全の確保を図ることを任務として、オウム真理教に対する観察処分を実施するとともに、国内諸団体、国際テロリズム、北朝鮮、中国、ロシア等の周辺諸国を始めとする諸外国の動向など、公共の安全に影響を及ぼす国内外の諸情勢に関する情報の収集及び分析に取り組み、我が国情報コミュニティの一員として、情報(インテリジェンス)の提供を通じた政策決定への貢献に努めています。

最近の内外の諸情勢を見ますと、世界経済の重心の西から東への大移動、中国の経済的・軍事的台頭、核兵器を始めとする大量破壊兵器の拡散、IT革命とサイバースペースの目ざましい発展など世界史的な数々の大きな変化を背景として、我が国は、内外ともに、様々な、しかも、その多くがこれまで長く経験しなかった新たな状況と課題に直面しています。

このような情勢の下で、我が国は、東アジアの先進民主主義国として、安定と発展を維持するとともに、自由、民主主義、基本的人権、法の支配などの普遍的価値を擁護し、世界特に東アジアにおける平和と繁栄に貢献することが求められています。情報の収集と分析は、そのための政策の基礎として、ますます重要になっています。

平成25年11月、本資料の作成準備中に、国家安全保障会議設置法が成立しました。公安調査庁は、情報コミュニティの重要な一員として同会議に関係情報を積極的に提供することを求められており、今後国家安全保障局とも緊密に連携していくこととなります。

当庁としては、引き続きオウム真理教に対する観察処分の厳正な実施に努めるとともに、このような時代の要請にこたえ、情報収集分析能力の一層の向上に努め、情報による貢献の強化を目指してまいりたいと考えております。皆様には、本資料をご活用いただきますとともに、当庁の業務についてご理解を賜りますよう心から願っております。

平成25年11月

目次

-
- 001 内外情勢の回顧と展望
(平成26年版)の発刊に当たって
公安調査庁長官 尾崎道明
-
- 004 平成25年の公安情勢の概況

平成25年の 国外情勢



-
- 009 国外情勢1
北朝鮮・朝鮮総聯
-
- 1-1 金正恩体制の基盤固めを進めつつ、
経済発展に力を注ぐ北朝鮮
-
- 1-2 核保有の既成事実化を図りつつ
米国との対話を模索する北朝鮮
-
- 1-3 硬軟両様の対応で
韓国新政権を揺さぶる北朝鮮
-
- 1-4 頑なな対日姿勢を続ける北朝鮮
-
- 1-5 許宗萬体制の強化に取り組む朝鮮総聯

コラム

-
- 011 「10大原則」について
-
- 014 核実験後の中朝経済関係
-
- 016 開城工業団地について
-
- 020 43年ぶりに延期された全体大会

-
- 021 国外情勢2
中国
-
- 2-1 尖閣諸島「領有権問題」で対日強硬姿勢を
継続、「力による現状変更」の試みも
-
- 2-2 「中国脅威論」に対抗し「平和的発展」を
強調、有利な国際環境の整備を意図
-
- 2-3 一党独裁体制の維持に危機感、
党再建・基盤強化を急ぐ習近平体制
-
- 2-4 两岸の経済・政治関係の進展を図る
習近平指導部

コラム

-
- 024 国务院機構改革後の国家海洋局
(中国海警局)について
-
- 030 「『トラ』も『ハエ』もたたく」習近平指導部

032 国外情勢3
ロシア

-
- 3-1 権力基盤強化に向けた取組を
積極的に推進するプーチン政権
-
- 3-2 「多極化世界」の中で「大国」としての
プレゼンス保持に腐心
-
- 3-3 日口関係の発展を重視するも、
領土問題では立場の違いを強調

コラム

-
- 035 ロシアの「クリル諸島」(千島列島及び
北方四島)開発計画が新たな段階へ

036 国外情勢4
中東・北アフリカ

-
- 4 先行き不透明な中東・北アフリカ地域

コラム

-
- 037 マリ北部地域の情勢

038 国外情勢5
国際テロ

-
- 5-1 「アルカイダ」関連組織は脅威を拡散
-
- 5-2 アフガニスタン及びパキスタンでは
依然として深刻な治安情勢が継続
-
- 5-3 東南アジアでは
イスラム過激組織などが活動を継続

コラム

-
- 040 在アルジェリア邦人に対するテロ事件
-
- 043 「コーカサス首長国」指導者が
ソチ五輪阻止を呼び掛け

044 国外情勢6

我が国に対する有害活動

6 軍事転用可能物資・技術や重要情報の獲得を狙った活動

コラム

046 シリアの化学兵器開発に対する
北朝鮮・イランの支援

046 中国人民解放軍による
大量破壊兵器関連物資などの調達活動

平成25年の

国内情勢



048 国内情勢1

オウム真理教

1-1 オウム真理教が組織勢力を伸張

1-2 “麻原絶対”を堅持し
危険な体質を露呈する主流派

1-3 観察処分を免れるため
欺まんの体質を維持する上祐派

1-4 観察処分を適正かつ厳格に実施

054 国内情勢2

社会的に注目を浴びた 事象をめぐる諸団体の動向

2-1 「再稼働阻止」を掲げた反原発運動の継続

2-2 普天間基地移設やオスプレイ配備の
撤回を訴える反基地運動の継続

2-3 国政課題を捉えた多様な批判活動の展開

コラム

057 2020年五輪の東京開催をめぐる反対活動

058 国内情勢3

過激派

3-1 労組・市民層への浸透を図り、
勢力拡大に力を注いだ過激派

3-2 「よど号」グループ・日本赤軍の動向

コラム

059 過激派の非公然アジト

061 国内情勢4

共産党

4 「自共対決」を掲げて参院選で
議席を伸ばした共産党

063 国内情勢5

右翼団体など

5-1 外交・領土問題などを中心に
活動した右翼団体

5-2 「日韓断交」などを訴えて活動した
右派系グループ

コラム

064 国内諸勢力による尖閣諸島の
実効支配強化を訴える動きが活発化

065 東京・大久保などでの活動をめぐり
「対抗勢力」と小競り合い

巻末資料

国外(最近の主要公安動向)

国内(最近の主要公安動向)